

ジョイント仕立て等、改・新植の面積拡大

■背景とねらい

これまで日本なし樹体ジョイント栽培の普及推進を図ってきたが、改植後の白紋羽病等による枯死や生育不良により改植が進まない状況となっていた。そこで、未成園を選定し、ジョイント栽培の課題解決を図りながら、将来的なモデル園となるよう、JA、下伊那園協等と連携しながら技術指導を実施した。

■本年度の取組

1. ナシ樹体ジョイント栽培講習会の実施

5月13日に南信農業試験場を会場に、日本なし樹体ジョイント栽培講習会を実施した。定植から幼木期までの成育確保のほか、ジョイント実施後に側枝を確保する技術について研修を行った。

2. 早期樹形確立のための技術の普及

モデル園候補として未成園7園地を選定し、支援センター及びJA・園協の担当者が6月から2月まで毎月巡回指導を行った。11月25日、30日にジョイント栽培における課題を検討するため、7園地（うち重点対照3園地）の巡回現地検討会を行った。2月16日にジョイント栽培園（平棚）のせん定検討会を実施した。また、V字ジョイント樹形について、7月20日に現地検討会、1月25日にせん定検討会を実施した。



2月16日のせん定検討会

3. 樹体調査による栽培上の課題の明確化

優良園と課題のある園との違いを明らかにするため、冬期に2園地の樹体調査を実施した。

4. 生産者アンケートの実施

日本なし産地再生プロジェクトの一環として、管内のナシ生産者にアンケート調査を実施し、ジョイント栽培導入の意向について調査を行った。

■本年度の成果

1. ナシ樹体ジョイント栽培講習会の実施

日本ナシ樹体ジョイント栽培講習会には38名の生産者が出席した。生産者からの質問が多く出され、関心の高さが感じられた。

2. 早期樹形確立のための技術の普及

モデル園については、JA・園協と連携してそれぞれの園地の課題解決に努めた。平棚、V字ジョイント園での巡回、せん定検討会では、関係機関の間で今後の指導方針と栽培上の課題の共有を行った。次年度以降も継続して巡回・検討を行い、モデル園地の育成につなげる。

3. 樹体調査による栽培上の課題の明確化

夏季の新梢管理が不十分な園地では、枝の発生が少なく、徒長枝化し主枝が負け枝化しやすいことが確認できた。

4. 生産者アンケートの実施

ジョイント栽培の導入意向では、興味なし・導入しないが7割と多くを占めた。原因は高齢により新たな技術を導入できないが最も多かった。

■今後の課題と対応

ジョイント栽培の長期的な振興を図るため、モデル園となる園地の育成を図る。そのためには、夏季の新梢管理が重要であることから、関係者で夏季管理のポイントについて情報の共有を行い、モデル園の育成につなげる。また、優良栽培事例収集作成のため、重要な管理時期の写真撮影など、必要な情報の収集に努める。

（技術経営係：山近 龍浩）